

友はみな
いい奴ばかり
日向ぼこ、忠文

神戸市会議員

ただ ふみ

うらがみ忠文新聞

2023年
春の号

「ひとりぼっち」じゃないよ。

「誰にも担任の先生との思い出は深いです。優しい笑顔が生まれます。」

児童ひとりひとりの成長を見つめ、伸びゆくきっかけを探し、希望を生み出して下さいました。遠足の用意が十分に出来ない友だちに、その手当を渡しておられました。

児童の幸せが、先生の喜びだったのでしょう。まことに、ありがたいことです。

私たちがみんなが、担任の先生になったら、どんなに素晴らしい神戸になることでしょう。まずは市役所から、あったかい担任の先生をめざします。なーに、やれば出来る。

「誰も知り合いがいらない」という相談に、私は「では、かつての担任の先生を思い出して、話してみたら」と、提案します。

皆さん、遠くを見つめるような表情になり、

「孤立しが、よくないのです。」

「誰か、つながる人がいれば、希望を持って生きて行けるものです。」

うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元 大丸神戸店「くじゃく通信」編集長
- ・元 神戸市立御影北小学校 PTA会長
- ・NPO 障がい者就労支援作業所 副理事長
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2019年 神戸市会議員7選



JR住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に!

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 Eメール tadafumi@uragami.jp

うらがみ忠文

検索

●〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市会「つなく」議員団 浦上忠文発行 TEL 078-322-5849

【議会報告】私の、本会議一般質問の要旨。

■浦上忠文の質問。

私の人生の目標は、貧しい人が世の中から1人でも少なくなったら良いということだ。

近年、困っている人や途方に暮れている人、様々な苦悩を抱えている人が見えづらくなっていることが、日本社会の問題だ。以前は地域の中で互いに声を掛け合い、支え合う連帯感があったが、今は個人個人が、砂粒のように孤立してしまっている。

「子ども食堂」は、子どもの貧困対策だけでなく、地域の交流の場としても有効ということで、注目を浴びている。コンビニの数ほどあっても良いと考えるが、神戸の「子ども食堂」の実態について伺いたい。

■久元市長の答弁。

本市では、全163小学校校区に子どもの居場所が出来るように進めている。「子ども食堂」を含む子どもの居場所を多く作って行くことは大変重要だと考えており、これまでの支援策を検証しながら、さらに取り組みを強化していきたい。

■浦上忠文の再質問。

最近、市長は、神戸に大学を誘致することに非常に関心をお持ちのようだが、世の中を明るく改革して行くために「子ども食堂大学」を神戸独自で作ってはどうか。変わった名前に聞こえるが、どんな大学や？
と聞いて貰うぐらいの方が世の中に与える印象は強い。

そこでは、「子ども食堂」や「子どもホスピス」など、困っている子どものコミュニティ、生活保護や障がい者福祉など、様々な社会の課題について幅広く研究し、貧困を越えて居場所と活躍の場を生み出す仕組みについて考えるのはどうか。

■久元市長の答弁。

子どもの貧困問題は、非常に深刻で、様々な施策を展開することで考えていかなければならない。

同時に、これを支援する取り組みが市民の間に拡がり、また企業からの支援にもつながって行くようなサイクルを作って行くということが重要では無いかと思う。

私と市長は、おたがい様。
市民と市役所も、おたがい様。
152万神戸市民、すべて幸福へ！

浦上忠文

